【東京パラリンピックが閉幕】

障がい者スポーツの祭典パラリンピックが、コロナ感染拡大でいろんな制約が課せられる中、感動と共生社会の意義を問いかけて無事閉幕しました。
パラリンピックは、誰もが個性や能力を発揮できる公正な機会が与えられる場を具体的な形で示し、多様性を認め合う共生社会の実現を示し追及する場です。 障がいがあっても残された身体機能を活かして、創意工夫で限界に挑む選手の姿に 障がいの有無にかかわらず困難を乗り越えて今を生きる私たちに、前に進む勇気と元気を与えてくれたのではないでしょうか。

共生社会の実現は、国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に掲げる「誰一人取り残さない社会」と重なり、また 亀岡市の新たな総合計画の基本理念である「誰もが個性や能力を発揮し、共に生き、支え合い、ふれあいのまちづくり」の実践でもあります。

今は、コロナ禍にあって 人が集う機会が少なくなってはいますが、パラリンピック開催の問いかけに応えるべく、個々の違いを理解し合って、支え合う共生社会に向かって暮らしていきたいものです。